

# “チーム育児” なに？

チームメンバーは  
経験・年齢・性別不問

# 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 実行委員長あいさつ                    | 2  |
| 稲城市長あいさつ                     | 3  |
| 基調講演 講師：遠藤 利彦 氏              | 4  |
| 質問タイム・パネル展                   | 15 |
| ポスター                         | 17 |
| 『稲城市婦人のつどい』から『女と男のフォーラムいなぎ』へ | 18 |
| 実行委員になって一言                   | 22 |
| 女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員会活動経過報告  | 24 |
| 女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員名簿       |    |

## 女と男のフォーラムいなぎ2022

### 【経緯】

このフォーラムは、2022年1月29日（土）稲城市中央文化センターホールにて開催するために準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためやむを得ずホールでの開催を中止といたしました。

そこで、『このフォーラムの全てを中止にはしたくない。』という実行委員の強い思いから急遽、オンラインにて講師にご講演いただき、この記録集にまとめました。

このフォーラムを楽しみにして下さっていた皆様におかれましては、直前にこのような形となりお詫び申し上げます。

## 実行委員長あいさつ

坪内 美幸



こんにちは。

新型コロナウイルスの感染症拡大を防止する為、オンラインを活用しての開催となりました。

このような状況下でも開催にご協力を頂いた皆様には感謝を申し上げます。

1975年の国際婦人年をきっかけに始まったこのフォーラムも今年で44回目を迎えました。長い歴史の中で変化はありましたが、この新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させ、様々な生き方・価値観が広がったように感じます。

多様性を感じられる今だからこそ、このフォーラムの全てを中止にしたい強い思いから準備をしてきました。

今年のテーマは「チーム育児ってなに？」です。

男性の育児休暇が話題になっているという事もこのテーマ選定の理由のひとつでした。

男性の育児休暇が話題になるのは、未だ女性が子育てをするというスタイルが根強く残っているということですが、男性の中にも育児をしたいと考えている人も増えていることの表れではないでしょうか。

しかし、先行きが不透明な今、精一杯毎日を過ごしていても育児に不安を感じている方もいらっしゃると思います。

そんな中、子どもたちに素敵な経験を与えてくれたり、子育てに悩んだり、疲れている自分を応援してくれる人たちがいたらどんなに心強いかと思います。そして、子どもたちや保護者を応援したいと思っている方も数多くいらっしゃいます。

今年は、育児に関わっている方々を孤独にしない「チーム育児」について東京大学大学院 教育学研究科 教授 遠藤利彦さんを講師に迎え、お話を伺います。

本日のフォーラムが皆さまの思いや考えをより深めることを願い、実行委員を代表し私の挨拶とさせていただきます。

## 稲城市長 あいさつ

高橋 勝浩



皆さん、こんにちは。稲城市長、高橋勝浩でございます。

稲城市では、「女と男のフォーラムいなぎ2022」の開催が1月29日に予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となってしまいました。

一年間、準備を行ってきたフォーラムをどうにか市民の方へ発信できないか、という実行委員会の思いから今回はYouTube配信を行うことになり、配信にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

このフォーラムは、1975年の国際婦人年を記念して「稲城市婦人のつどい」という名称で、昭和51年に初めて開催されてから今回で44回を迎えますが、そのような草創期から実行委員の皆さんと市との協働で男女共同参画を目指し、現在に至るまで取り組まれてられました。実行委員の熱心な思いと長期間にわたるご活動によりまして、フォーラムが継

続されていることに心から敬意を表し感謝申し上げます。

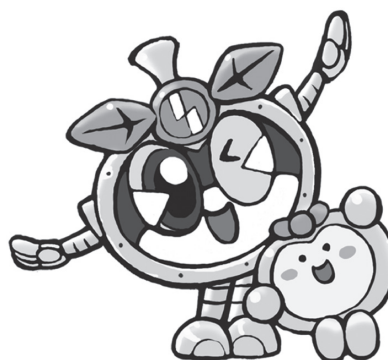
今回、ご登壇いただく遠藤利彦先生におかれましては、大変お忙しい中、講演をご快諾いただきまして誠にありがとうございます。

遠藤先生は、親子関係・家族関係と子どもの社会情緒的発達との関連性を主に研究されています。また、テレビなどでもご活躍されているところであります。

今回は、子育てを一人で抱え込まずに周りを頼る“チーム育児”についてお話をいただき、新しい育児について考えていただければと思います。

このフォーラムをお聞きになり、男女共同参画がより一層広がっていくことを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、開催誠にありがとうございます。



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市

## 基調講演

講師 遠藤 利彦 氏



### 《子どもの発達心理学とは》

私は発達心理学を専門に、子どもの発達の基本的な研究を手がけています。この研究をするようになったきっかけはスヌーピーが登場する漫画『ピーナッツ』にでてくるライナスという男の子です。ライナスはいつも毛布を持ち歩いています。お子さんによっては、ハンカチ、ガーゼ、タオル、柔らかいぬいぐるみ、母親のスカーフ、あるいはシーツの切れ端という場合もあるかもしれません。そういうものをボロボロに擦り切れるまで、あるいは少し汚れて嫌な臭いを発するまで、ずっと持って離そうとしないお子さんがいます。

日本では大体3～4割、欧米では7～8割ぐらいのお子さんが持つことが分かっており、持っていないと逆に心配されます。日本では持っているお子さんが若干少数派ということもあり、おうちで何か寂しい思いをしていると心配された時代もありました。しかし、これらを持っているかどうかは、その後の子どもの発達に違いをもたらすということはなさそうだと分かっています。

ただ、何か理由があるに違いない。一人一人の子どもの違い、個性はどんな仕組みで生じてくるかを掘り下げて調べてみたいと。平たく言えば、どんな環境で、どんな人からどんな育てられ方をしたら、どんな性格、個性の子どもに育つのかを調査し、データを集めて分析し少しでも明らかにできればと様々な研究を手がけてきました。

こういう毛布とかハンカチ、ガーゼ、ぬいぐるみに関する研究を世界で最初に始めたのはイギリスの児童精神科医であり小児科医のウィニコットさんです。彼は、子育てや保育などに参考になる魅力的な言葉をたくさん残しています。その一つに「ほどよい関係」というのがあります。子どもがよく育つ、健やかに育つ、たくましく育つ、子が親とどういう関係かは、「それって程よい関係だよ。程々の関係だよ。」と言ったことで知られています。親視点から言えば、肩の力が抜けているぐらいの関わり方こそ子どもは一番よく育ちます。子ども視点で言えば、あれやりたいこれやりたいと思っても、すぐにそれは叶わない、これ嫌だと思っても、すぐにそれがなくなるとは限らない。子どもは、そこで適度なストレスやフラストレーションを経験するかもしれません。しかし、子どもの発達には大切です。

自分の崩れた感情をもとどおりに立て直そうとする。子ども自身が心のたくましさというものを獲得していく。自分ではね返していく経験を小さい段階で持つことはすごく大切で、完璧ではない、程々の関係の中で子ども

が成長していくことがすごく重要だとウィニコットさんは言ったのです。

これに関連して、子育てに理想型はないと考えた方がいいということです。

インターネットで検索をかければ、育児に関連した情報を容易に手にすることができるようになりました。例えば子どものIQを伸ばすための親の言葉かけやどんな言葉がいいのかが分かります。それは研究に基づいているものもあるかと思いますが、そのまま自分の子どもに実践しても、実はうまくいかないことの方が一般的だと思います。それは、親も子も一人一人違うからです。

つまり、何が良くて何が悪いかは、大人の個性と子どもの個性の組合せで違い、理想的な子育てはないと考えた方が良くて、それぞれの個性を生かすやり方を見つけて実現していくと良いと思います。

### 《「チーム育児」とは》

前置きが長くなりましたが、ここから本題に入ります。私は子どもの発達の基本的な研究をやっている傍らで、東京大学発達保育実践政策学センターのセンター長をしております。子どもの発達に関する研究成果を子育てや保育や幼児教育につなげていこうと、様々な研究プロジェクトを展開しております。

その内の一つに、2016年に生まれた子どもとその親、全国3,200組を超える家族にご協力いただいて、0歳から年1回調査を続けていくというプロジェクトがあります。

そこから明らかになってきたことを基に、既に2回にわたって子どもの育ち、子どもに

対する接し方、関わり方、育児の在り方に関するシンポジウムも実施しました。

本日は、そういった研究結果にも部分的に触れながら、「チーム育児」とは何か、なぜ必要かについてお話しします。

育児は子どもが生まれる前から始まり、妊娠期からその親を持続的、包括的に支え続けていくことが必要だということが世界標準の基本的考え方になっています。「チーム育児」はお子さんが産声を上げる前から開始するのがより効果的です。胎内環境がどれだけ健全であるかが、生まれた後の生涯にわたる心と体の健康に深く関わっていることが明らかになっています。

「ネウボラ」という言葉、これはフィンランドから始まった一つの活動を指しますが、元は「相談の場」という意味で、妊娠中の母親が気軽に助言を求めることができ、その求めに応じる仕組みをつくり上げていく。お子さんが生まれてからもずっとサポートをし続ける仕組みのことを「ネウボラ」と呼びます。日本でもいろいろな自治体が、保健師さんらを中心にこの「ネウボラ」を展開しています。

加えて言うと、絶対あってはいけない不適切な養育、虐待、ネグレクトなどの予防も、生まれてきた子どもとその親とのやり取りや相互作用が実際に発生する前の胎児期から行われることが効果的です。子どもが生まれてから虐待を予防するよりは、生まれる前の段階から妊婦さんを支えていくことが虐待予防につながるという考え方が一般的になっています。

胎児期の大切さに関して簡単にお話しします。ここに何やら難しい言葉があります。「DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease)」仮説というのが、注目を集めています。

これは、私たち人間の生涯にわたる心と体の健康と病気の起源が、子どもがまだ母親のお腹の中にいる時の胎内環境の性質の中にあるという考え方です。生まれてから10年、20年、30年、中年期になったときに罹る成人病、例えば高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病は、大人になってからの運動不足、栄養の偏り、アルコールの飲み過ぎから発生すると理解されるのが一般的だと思います。もちろん生活習慣と成人病の関連性は強くありますが、成人病になりやすいかは、生活習慣の不規則さだけでは説明できないことも知られています。

生活習慣以上に大きい影響力を持っているのが、胎内環境の健全性ではないか、ともいろいろな研究を通して言われています。つまり、栄養状態が乏しい状態で胎児期を過ごしたお子さんたちは大人になっていろいろな病気になりやすいというデータがあります。

さらに言うと、胎児期に赤ちゃんは栄養だけではなく、いろいろなホルモンを浴びます。男性ホルモン、女性ホルモンなどを浴びて体をつくり、脳をつくっていくわけです。そのホルモンシャワーの分泌のタイミングや分泌量によって胎児の発達が少なからず影響を受けることも考えられています。

さらには、母親のお腹の中には、テラトゲ

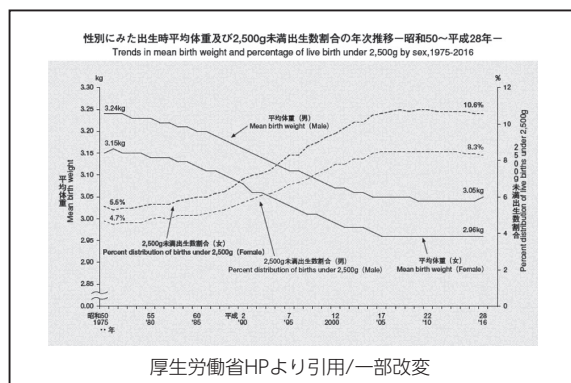
ンと総称される危険な物質が存在している可能性があります。よく知られているもので言えば、アルコールやたばこのニコチンなどですね。アルコールやニコチンが胎児に良くないことは広く知られていますが、実はそれ以外にも、大人には無害であったとしても、胎児にはかなり有害に作用してしまう物質があることが明らかになってきています。仮に有害な物質が母親のお腹の中に存在していると、これが生まれた後の赤ちゃんの心や体の健康に深く関わっていくと考えられています。

妊婦さんの心と体の健康を周りの人たちがサポートすることが非常に大切です。

つまり、胎内環境が健全でない場合は、低出生体重であったり、極端に早産で生まれてしまうというハイリスク児、つまり発達に何らかのリスク、危険性を抱えたお子さんが生まれてくる確率が高まってしまいます。

そういうハイリスク児のお子さんは、元来、発達に関して不利な状態で生まれてきていると言えます。しかし、その元々、存在しているリスクだけではなく、そうしたお子さんには生まれてから感情表現が乏しかったり反応が弱かったりすることが多い傾向があり、そのことによって、結果的に親子関係がなかなかうまく展開しない、ギクシャクしてしまうということも時にあるようです。そして、不適切な養育、極端な場合は虐待やネグレクトなどにさらされる確率が高まってしまうこともあるのではないかとということが研究の世界ではささやかれています。ハイリスクのお子さんが生まれてくることがないように、胎内

環境を健全に保つことはすごく大切だと指摘されています。



これは厚生労働省が発表している、新生児体重がここ50年間にどのように変わってきたか、2,500グラム未満で生まれてくる低出生体重児のパーセンテージを表しています。1975年の段階では5%ぐらいだったのが、2016年では男女合わせて10%、約2倍、10人に1人のお子さんが低出生体重児で生まれてくることが明らかになっています。新生児体重の平均値がかつては3,200グラムぐらいあったのが3,000グラム前後と200グラムも軽くなっています。

やはり胎内環境の健全性が心配される状況にあることも頭の片隅に置いていただけるといいと思います。

先程虐待予防は、妊娠中、胎児期の段階から考えていくのが有効だとお話ししました。私がかつて所属していた大学研究室の大学院生で、現在、山形大学准教授をしている本島先生の研究です。50人程の妊婦さんを対象に、お腹の中にいるお子さんがどういう性格の持ち主なのかについてお話をしてもらうインタビュー研究です。妊婦さんはお腹の中の子どもについて考えます。まだ見ぬ子どもに対し

ていろいろなイメージを抱きます。

具体的には、どんな性格のお子さんになると思うか、5つぐらいの言葉で表してもらいます。例えば、私に似ておてんばになるかなとか、おっとりしているのかも、優しい子になるかなとか、いろいろな言葉を挙げてくれます。そしてどうしてそう思うかなど、インタビューをしていきます。

妊娠中の母親の、自分のまだ見ぬ子どもに対する語り方の特徴を3タイプに分けてみました。

### 語りのタイプ(個人差)

- ▶ **安定型(Balanced)**  
子どもについての描写が豊かで鮮明。柔軟で一貫した語り。子どものポジティブな側面のみならず、ネガティブな側面に関しても、バランスよく自由にオープンに言及できる。子どもへの情緒的関与が高く、受容を示す。喜びや自信などのポジティブな感情が強い。
- ▶ **非関与型(Disengaged)**  
子どもへの情緒的関与に欠ける。子どもからの心理的距離が大きい。あまり多くを語らず、語りは最小限である。子どもに対して冷ややかで拒絶的。感情が抑制されている。
- ▶ **歪曲型(Distorted)**  
子どもについて多くを語るが、話にまとまりがなく、一貫性に欠ける。子どもに対して激しく混乱していたり、圧倒されていたりする。(特にネガティブな)感情表現が激しい。

一番上の安定型というのは、子どもについての描写が豊かで鮮明、柔軟で一貫した語りができています。長所と同時に短所についてもバランスよく話すことができています。子どもに関して感情をしっかりと向けて、子どもを受け入れているということが感じられます。そして、妊娠してこれから親になる喜びや自信などのプラスの感情が随所に感じられ、これが安定型の妊婦さんになります。

一方、子どもへの感情的な関心が若干不足し、子どもに対して距離を置き、あまりお腹の中の子どもについて語ろうとしない、関わ

りは最小限で、お子さんに対して何となく冷ややかな感じがするのが、二番目の非関与型の妊婦さんになります。

そして、最期は歪曲型。このタイプの母親は子どもについてたくさんのことを語ってくれますが、話にまとまりがなく、話をしていくうちに時々混乱してきたり、本当に自分は親になれるか、みたいな不安が働いたりもする。ちょっとネガティブな内容の語りが多いという特徴を持っている母親になります。

タイプ分けをした母親たちが、実際にお子さんを産んでから、そのお子さんに対してどんな関わり方をしたかを追いかけて調査していきます。そうすると、子どもが生後2か月での母親の敏感性にタイプによる違いが見られることが明らかになりました。子どものちょっとした変化、子どもが泣いたり、体を動かしたりをどれくらい敏感に察知して、どれくらいの確に応答できているかという程度が、この敏感性ということになります。

安定型の母親は、生後2か月で最も敏感性が高く、にこやかで、言葉かけがとても優しくかったり、子どもに向けるポジティブの感情の度合いも高いことが分かってきました。さらには、生後6か月でも敏感性はやっぱりこの安定型の母親が最も高く、お子さんが1歳半、18か月になったときのアタッチメントにも関係している。アタッチメントとは、子どもが怖くて不安なときに母親にくっついて、もう大丈夫だと安心感に浸れること、そして安心感を得たら、また楽しく遊びに出かけていけることを指します。つまり、どれくらい

親子関係がうまくいっているかの指標と考えてください。

この安定型の母親は、自分の子どもとの間に一番良い関係を築けていたことが明らかになったと言えます。安定型の母親の子どもは、発達もよりプラスの方向に進んでいく確率が高かったことが研究結果を通して分かってきました。

このことから、実際に母親が自分の子どもに対してどれくらい適切な関わりができるのか、子ども自身がどれだけ健全に発達していくかは、母親のまだ見ぬ子どもに対するイメージや語り方から既に相当予測することができる。もっと言えば、子どもに対して危ない関わりをしてしまう兆候は、まだ見ぬ子どもに対するイメージや語り方から予測できるというわけです。

こうした研究結果が世界各地で得られたことから、妊娠中から心理的、身体的に支えていくことが、母親が徐々にお腹の中の子どもを心理的に受け入れていけることにつながり、そして、そのことが結果的に虐待予防にも高い効果を上げる可能性があると言われるようになってきています。実際、現在、いろいろな国が妊娠の段階から虐待予防の活動を精力的に展開するようになってきております。

### 《「ゲートキーピング」とは》

父親自身は、何か家事をやった方がいいなと思っている。育児に関しても協力できたほうがいいな。気持ちはすごく豊かにある。例えば皿洗いでもやってみよう。しかし、皿洗いを父親がやると時間がかかり、十分にきれ

いには洗いきれない。さらには、お皿を頻繁に割っちゃう。下手にするぐらいだったら私がやった方がましだよ。あっちへ行ってと母親が言う。これが「ゲートキーピング」です。

これは、ある意味、子育てをやりたい気持ちがあるのに、空回りしてしまう、いい結果につながらないという意味で一種の悲劇と言えるのかもしれませんが。しかし、「ゲートキーピング」に関する調査をすると、多くの父親が、実際に母親の側からありがた迷惑で子育て参加への門を閉められてしまっていると感じることがどうも多いようです。

ただし、夫婦関係が良いと、父親はあまり締め出されているとは感じない、「ゲートキーピング」の程度は弱まる。また、妊娠期から子育てについて夫婦でいろいろ話し合いの機会を持ち、そして母親の心の健康が保たれている場合は、この「ゲートキーピング」が低くなる傾向があることが明らかになっています。父親の育児参加、これを締め出さなくなるということです。親になるための準備を母親が妊娠中の段階から着実に積み上げていくことが、結果的に、父親がお子さんが生まれた早い段階から育児に関して有効な担い手になっていくことの一つの鍵になると言えます。

### 《人間の子育てについて》

これからは、お子さんが実際生まれてからの話をしていきます。当たり前ですが、人の子どもはもろくて弱いから、実は母親がたった一人で子育てをすることはできなくて、人という生き物の本来の子育ての形は集団協

働型子育てだったという話をしておきたいと思います。

子どもは、細心の注意をもってかいがいしく世話をしていかなないと、生き延びて成長することができません。つまり、子育ての負担が非常に大きいということを意味します。このことは、母親一人ですべての子育てを完璧にこなすなどということは、土台、無理であり、他の多くの人たちからの手助けを必要とするということをも意味します。人間の子育ての形態は、本来、集団協働型子育てであるということが、今、生物学、人類学、民族学、心理学の領域では常識的な見解になってきています。

学問の分野では、人間は生理的早産の状態で生まれてくる、と表現されます。これはどういう意味かというと、他の哺乳動物と比べたとき、最も際立った違い、二足歩行するようになって、骨盤の構造が大きく変化したことが知られています。骨盤の構造が大きく変化したことによって、赤ちゃんが生まれてくる産道がとて狭くなってしまったことが知られています。

生物学者の中には、人間が二足歩行ではなくて、ほかの動物と同じように四足歩行のままの生活を続けていたとしたら、母親のお腹の中に21か月程いてから生まれてもおかしくはないと考える研究者がいます。

しかし、実際、人間の赤ちゃんは、その半分以下、10か月程度で生まれてきます。

これが、生理的早産という言葉の意味ということになります。胎内環境で過ごす時間が

本来の半分以下であるわけですから、人間の子どもは、必然的に、とても未熟な状態で生まれてこざるを得ないのです。

生まれてきた段階で、赤ちゃんは口元まで乳首を運んであげないとおっぱいを吸うことができません。それから、運動能力。1年ぐらいたないとヨチヨチ歩きだってできない。生まれてきた段階では、手足をちょっとばたつかせるぐらいの運動しかできません。さらに、人間の赤ちゃんは裸で毛がありませんが、特に体温を維持する仕組みが非常に弱いということが知られています。

大人になると、寒いときにはブルブル体を震わせることができます。あれも実は一種の運動で、体を震わせることによって、熱をつくり出して、寒いときに体温を維持することができています。しかし、赤ちゃんの段階で、身体を震わせるという仕組みはまだ備っていないので、春とか秋の大人にとっては心地良い気候であったとしても、裸のまま2時間外にほったらかされると、あっという間に体温が3度ぐらい低下してしまい、これ以上放っておかれると仮死状態、半日でももしかしたら生命はもたない、それぐらい人間の赤ちゃんはもろい存在だと言えるのです。

また、人間の赤ちゃんは未熟なのに体重が重いです。ゴリラの赤ちゃんは1,900グラムぐらいで生まれてきます。しかし、人間の赤ちゃんは、全世界的な平均で言うと、3,200から3,300グラムぐらいで生まれてきます。ゴリラは大人になると人間以上にたくましくて大きいわけですので、軽い体重の子どもを

育てることは当然、比較的、楽だと言えます。それに対して、人間の場合は、か弱い親が、未熟でしかも重い子どもを育てなければいけないわけですので、圧倒的に人間の子育ての負担が大きいという生物学者も少なくはありません。未熟だからこそ、しっかりケアをしなければいけない。体重が重いと、抱っこするにしてもそれだけ親にはすごく負担がかかるということになります。

人間の子育ては、赤ちゃんのときだけ手がかかるのではなくて、その後の子ども期が長いのです。子ども期は、おっぱいは卒業したけど、まだまだ親や家族が子どもに対して食事や安全保障をしてあげないといけない時期のことで、思春期の前までを指します。ちなみに、思春期とは第二性徴、初潮とか精通が始まる時期です。実は人間は、生物全体を見たときに、子ども期が最も長い生き物ではないかと言われています。

チンパンジーは子ども期が2、3年ぐらいしかありませんが、人間は10年以上にわたって続くので、養育の負担が長きにわたって続くことになります。人間の子どものとにかく手がかかり、当然、ヘルパーやサポーターが絶対的に必要であると心理学や生物学の中では強く言われています。

では、誰が手伝ってくれるのか。一番の候補になるのは父親です。人間は、父親を子育ての中に参加させようとしてきたと言われていました。ほかの生物でも、子育ての負担が高まれば、大体、父親が実際育児に関わる傾向があることが知られています。

例えばマーモセットとかタマリンは、父親がかいがいしく子育てをする猿の仲間です。おんぶされている子どもと父親の体の大きさを比較すると、おんぶされている子どもは相当大きいです。つまり、子どもがかなり大きく、しかも、基本的に双子で生まれてきます。当然、子育ての負担がすごく重いです。すると、母親だけでは到底育児ができないので、父親が母親以上に子育てをすることで知られています。育児が大変になればなるほど、父親の役割は非常に大きくなります。

人間の場合は祖母の存在がさらに重要な役割を果たしてきたと言われています。かつてはきょうだいがたくさんいる中で、年長のきょうだいも子育てに参加してきました。母親たった一人ではなく、父親、祖母、あるいは年長のきょうだい、子育てのヘルパー、サポーターとして非常に重要な役割を担ってきました。つまり家族全体で子育てを支えてきたのです。それが人間です。

しかし、人は、血縁関係にある家族が子育てをサポートするだけでは足りませんでした。人間の子どもは脆弱く、多くの人が協力して、手を携えて一緒に育児をしない限り、その子どもはちゃんと生き延びて成長することができませんでした。血縁関係に限らない隣近所の人たちも、みんなで協力して子育てしていました。人間にとって本来の子育ては、この集団協働型子育てだったと、普通に言われるようになってきています。

「アロペアレンティング」とは、親以外の人による養育のことです。母親、父親以外の

人も関わる子育てが生物としての人間にとっては基本的なものでした。仮に父親、母親が十分に子育てできなくても、子どもたちの育ちを支えてくれる人たちが二重にも三重にもいました。言ってみれば、セーフティーネットが多層的にあるような状況が人間の本来の子育ての形だったのです。

人間の本来の子育ての形は、この集団協働型子育てでした。それに対して、現代の子育てはどうでしょうか。確かにこの四半世紀ぐらい「男女共同参画」という言葉を頻繁に聞いてきました。イクメンなんてもう古い言葉になりつつあるかもしれません。

先程、研究の世界では、生物としての人に関する話をしましたが、人類、人間の長い歴史の中において、子育ての責任は母親にあるという考え方はあまりありませんでした。

実のところ、日本では、戦後、特に高度経済成長期において、専業主婦が非常にたくさん生み出されたことと連動して、子育ては母親の役割だと考える風潮が強まったと言われることもあります。

1980年代に使われた言葉に母原病という言葉があります。子どもの発達に何か問題があると母親に原因があると考えてしまう風潮。これに関しては批判も多かったわけですが、当時は、それを受け入れる社会の土壌もあったように思います。さすがに、今の日本においては、この母原病的な考えを表立って肯定するような風潮はかなり薄まってきていると言えるかも知れません。しかし、まだまだ日本の社会の底流には、育児を母親の役割だと

考える傾向が根強く残っていることは否めないと考えています。

こうした視点からすれば、人という生き物の本来の子育ての形が集団協働型子育てであるとしたら、これを現代の事情に合わせて復活させていくことが今の一番の課題だと言えるでしょう。もちろん、かつてのように、隣近所のおばちゃんやおじちゃんにお子さんを託すというのは容易にはできないかもしれません。何か違った仕組みが必要だと思っています。おそらくは、保育所やこども園などが中核的な役割を果たしながらネットワークを構成して、現代的な集団協働型子育てを復活させていくことが、最も現実味のある方向性だと思います。

世界的に様々な調査が行われる中、特に先進国の中での比較で言うと、父親の育児に対する貢献度は、日本が最も低水準国の一つであることが明らかになっています。

研究の世界では、父親が子どもとただ長く時間を共にするだけで、非常に効果があり、子どもとの間でいろいろなやり取りやコミュニケーションが促され、一緒に遊ぶ中で父子間の感情的な絆が深まっていくことが示されています。生理学的な意味でも父子が一緒にいるだけで父親の中に愛情ホルモンはより多く分泌される傾向があり、その意味でも良い父親になれる傾向が強まるとも言われています。

一方で、仕事の関係などで長く関わりたいと思って長く関われない父親もいるということも否めないところだと思います。長くい

ることができなくても、父親が子どもと短くても特別な時間を過ごすことにも意味があります。平日は仕事で帰宅時間が遅く、子どもと関わる時間、一緒に遊ぶ時間、生活する時間はほとんど持てないけれども、日曜日の午後ぐらい子どもと一緒に遊ぶ、生活をする時間をしっかり持つ、短くてもそういう特別な時を過ごすことが、実は子どもの発達にプラスに働くことが分かってきています。

どういうことかという、母親が平日ずっとお子さんに関わっていると、あまり言葉を交わさなくても、今、お子さんが何を欲しがっているかが分かるので、意外に日常の当たり前のことについてはあまり頻繁に言葉を交わさなくなることがあるかもしれません。

しかし、父親は、日々あまり関わっていないので、お子さんがどんなものに関心を持っているかがよく分からず、まずはそれを確かめることから話を始めるかもしれません。あるいは、父親は、つい子どもが知らないような言葉を発してしまうかもしれません。しかし、子どもは、父親と遊べるのは日曜日のこの時間だけだったら、そこですごく集中するわけです。すると、父親が全然自分の知らない言葉、話しかけてきたよ。今の言葉って何？今度はそれを父親に聞く。父親はそれを一生懸命説明しようとする。普段の母親との相互作用とは全く異なる関わりややり取りを経験して、普段、聞かない言葉を聞いたり、それまで全く触れたことのない知識に触れたりすることができる。それによって、時間が短くても父子が特別な時間を過ごすことが、

子どもの認知面の発達や言語面の発達などにプラスの効果をもたらすのではないかということが欧米の研究では明らかになっています。

父親もいろいろな情報が得られるようになっていの中で、男性も育児に関心を持ち、参加する必要性があると頭では分かっていると思いますが、行動に移せないことも、今の日本においてはまだまだ根深い問題としてあるのかもしれません。

先ほども申し上げたように、男性も育児、家事にしっかり参加できる、あるいはワーク・ライフ・バランスを適正に保つことに関して制度面での整備は相当進んできています。育休も以前に比べれば大幅に男性も取りやすくなりましたが、実際には取れないという人たちも多いかもしれません。

制度面が進んできているが故に、かえって家庭と仕事のバランスをどう取ったら良いか、その葛藤が男性においては深刻化しています。個人の気持ちは変わり、そして家庭での夫婦の連携もお互い認識できた。だけど、職場が子育てに関して理解を示してくれていない。そこで葛藤を抱えてしまう。それが男性の心の健康、メンタルヘルスを低くしてしまっていることもあります。

上司の方、イクボスという言葉もかなり一般的になってきていますが、上司が子育てに関する理解をしっかり持ち、前向きに変えようとしている場合は、実際に男性も育児に参加できるようになり、それが仕事面にもプラスに働くということがあるようです。男性が育児に臨めるようになると、仕事にマイナス

に作用するどころか、むしろ仕事にも張り合いを持って臨むことができる。仕事の上での効率性が上がることも、研究を通して分かっています。

父親が子育てに参加してくれることは一番望ましいことですが、もちろん、母親一人で子育てをしている、シングルマザーのご家庭も常に多くあります。もしシングルで子育てをしていたり、父親の仕事が非常に忙しかったり、単身赴任でなかなか育児に関われなかったりする場合は、父親を中核的な役割としない、別の形を探し出すことが重要です。

そもそも、父親たちがどれぐらい子育てに参加しているかということ、社会、文化によってまちまちです。さっき申し上げたように、核家族化が進んでいる欧米圏においては父親の役割は非常に大きくなってきているようです。日本も含めてそう言えるのかもしれませんが。しかし、文化によって父親は子育てにあまり参加しなくても、ほかの人たちがヘルパーとして参加してくれると、実は子どもはちゃんと健康に育つことも、いろいろな研究を通して分かっているところです。

核家族のように、家族の中に子育てを手伝ってくれる祖父母などがいないときには、父親の役割というのはすごく大きくなりますが、それが唯一の形ではなくて、各人が置かれた状況に応じて「チーム育児」のそれぞれの形を作り上げていくことも必要です。

特に、親族からのサポートがなかなか得られない場合には、子育てサポートを自治体単位、あるいはNPOを中心につくり上げてい

くことはすごく重要だと思います。その支援を与えるということ言えば、誰でも気軽に立ち寄れる町づくりを進めていくということ、恐らく稲城市でも相当これは進んでいることだと思いますが、実際、全国各地で子育てサポートの仕組みはいろいろと試みられ、実現されて、ネットワークも広がっていると思います。

一方で、実はこの与える側の視点だけでは子育て支援がうまくいかないことも知られています。与える側は当然、ここにはこれだけのサービス、ネットワーク、資源、情報もありますよと発信するのだと思います。しかし、与える側がいくらがんばっても、受ける側にいる人が、そもそも、それらを活用する気にならなければ、話は始まらないのです。その意味では、父親、母親自身が自分から支援を求め、親が主体的に自分に合ったそれぞれの「子育てチーム」をつくれるようになることを応援することが求められているのです。

子育てに何か悩みがある時に、自分から助けてと恥ずかしがらずに高らかに叫ぶ勇気が必要です。自分から動いて求めていく。与える側の観点からいうと、いろいろなサービス、リソースは、現にいろいろな自治体にそれなりに存在している。存在はしているけれども、親の側がこれを自ら活用していないことに、実は大きい問題があることも知られています。親が、それらを使いたい、使おうという気持ちをふくらませることができるよう、支援していくことこそが実はすごく重要なのです。

困っていたら、恥ずかしがらず、助けてと

言うことはごく自然で、子育てはみんなでやるものだ、そういう感情的な雰囲気の中で、助けてと自然に言える、自分で子育てチームを選んでつくっていく、親が主体的、能動的に援助要請を求めていく力を持てるサポートをしていくことが、日本社会で求められている気がいたします。

子育てに関して、父親は母親に対して全幅の信頼をしている場合が多いですが、私どもの研究の中では、実は母親は父親に対して、子育てのパートナーとして若干頼りにならない、と思っている割合はそれなりにあります。また、父親以外に助けてくれる人がいればいほど、子育てに対する前向きな気持ちが高まっていくことも調査から分かっています。

父親だけではなく、いろいろな人からなる子育てチームを支えていくことが必要になります。単純にサービスリソースを充実させるだけでうまくいくわけではなく、むしろ利用する側、この支援を求める親自身が自然に恥ずかしがらずに高らかに助けてと言葉を発し、そして自分でチームを選んでつくる、援助要請を主体的にできるように支援をしていくことが、これから日本においてますます求められることではないかなという気がいたします。

ここで私の話を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

## 質問タイム・パネル展

**【質問1】** 父親や子どもが長く時間を共にすることで心理的に「良き養育者」となるというのですが、子どもと父親に留守番をさせると、パパは携帯をずっと触っていたり、オンライン動画を子どもに見せっ放しにしたりするので、結局、母親が子どもを連れて出かけることになりやすいと聞きますが、具体的にどのような影響が子どもに与えられるのか、もう少し聞きたいです。

**【遠藤】** まさにゲートキーピングの一種と考えられます。それぐらいだったら、連れていったほうがいいと、母親が思うのも自然なことです。ただ、父親とお子さんが違うことをやっていたとしても、その空間に一緒にいること自体に意味があります。オンライン動画やテレビを観ていても、ときどき会話したり、一緒に食べたりする時間はあります。生活空間を共にして一緒に時間を過ごすことに意味がないわけではないと考えるとよいと思います。

一方で一緒にいるなら、その時間を充実させるにこしたことはないです。テレビを見るにしても、同じものを一緒に見る時間を作ってほしいです。一緒に動画を見て、共通の話題にして、「これ、面白いね」と話を交わすと、すごく深まっていくし、非常に有意義なものになります。

**【質問2】** チーム育児の大切さが分かりました。これは、地方創生にも繋がると思いますが、どちらかの自治体と連携した事例はありますか。

**【遠藤】** 地域格差はありますが、今は多くの自治体が、子育て支援に前向きに取り組んでいると思います。父親にも子育てに積極的に参加してもらい、周りの人たちもサポートする体制をつくり上げようとしています。資金面の援助をかなり進めている自治体もあります。

ただし、そういうサービスを充実させる割に効果が上がらないとも言われています。それは、使う側が自分で探したり、活用したりしないからです。せっかくいろいろなものを利用できるのに、それを使うことができない。使う側の意識をどう変えられるかということも、重要なことです。示すだけでは本当のサポートにはならないので、積極的に使う気持ちになれるようサポートしていく雰囲気を作り、一人ひとりの気持ちを高めることが重要で、全国的にも、そこが共通の課題になっています。育児サークルなどボランティア精神で支える動きは、非常に活発で肯定的に受け止めるべきですが、使う側の視点に立って応援していくことに、注意を向けるとよいと考えます。

**【質問3】** 現在のコロナ禍の状況の中、保育園の休園などで困っている、ひとり親家庭などに手を差し伸べる方法はありますか。

【遠藤】 保育所の先生方は、そういう家庭とも連絡を取り合って、お子さんがどういう状況にあるのかを把握して、母親、父親のサポートをしていく体制を作り、実施していると思います。実際、われわれのコロナ禍の影響に関する調査でも、いろいろな試みをしていることが明らかになっています。

ただし、そういうサービスを活用する気にならない保護者も多いようです。そういう中で育児が孤立しないよう、保護者同士のネットワークをどう作るか。保育所の先生には相談できないけれども、困っているということを打ち明けられる友達が1人でもいれば、解決の糸口が掴める気がします。

保育所と親の線を繋ぐだけでなく、保護者の方同士の繋がりも一緒に考えていく。コロナ禍が想定以上に長期になり、対面で顔を合わせることができない中、オンラインで連絡を取り合うことが気軽にできるような体制を考えていただきたいです。

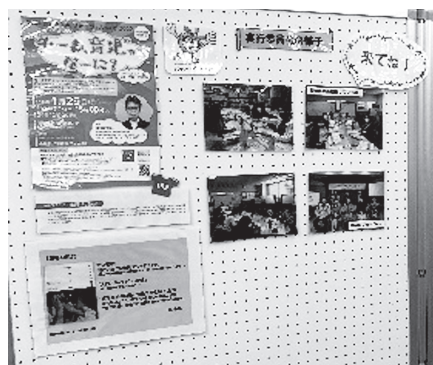
保育所や幼稚園も相談に応じるだけでなく、私たちが関わらなくても、その園に通っている人たち全員がチーム育児のメンバーなので、先生自身がヘルパーとかサポーターという役割を取らなくても、お互いにヘルパー、サポーターになれるような、ネットワークづくりをするとよいと思います。

## パネル展

フォーラム開催に先がけ市役所1階ロビーでは資料展示、市内各図書館ではイベント及び関連図書のPRコーナーを設置しました。

市役所1階ロビー

期間：令和4年1月14日（金）  
～1月28日（金）



# 第44回女と男のフォーラムいなぎ 2022

参加費無料  
託児あり

## “チーム育児”って なーに？

チームメンバーは  
経験・年齢・性別不問

“チーム育児”とは、家庭で育児を抱え込まず、子育て支援サービスや地域の人を頼りながら行う育児のことです。  
子育て真っ最中の人も、そうでない人も、これからの育児について一緒に考えてみませんか。

2022年 **1月29日(土)**  
**13時00分～15時00分**  
(開場12時30分)

稲城市中央文化センター  
ホール(稲城市東長沼 2111)

講演

定員 50 名・申込先着順

会場参加型質問タイムあり



講師

**遠藤利彦氏**

東京大学大学院 教育学研究科教授  
発達保育実践政策学センター(Cedep)センター長  
NHK Eテレ番組『すくすく子育て』出演中

### 申込み・問い合わせ

稲城市 産業文化スポーツ部 市民協働課 男女平等参画係

■電話：042-378-2111 (内線 273)

■ファクス：042-378-5677 ■メール：shiminkyoudou@city.inagi.lg.jp

■主催：稲城市 ■企画運営：女と男のフォーラムいなぎ 2022 実行委員会

■当日は申込みされた方を優先してご案内しますので、予めご了承ください。

講演中は、要約筆記・手話通訳・点字プログラムがあります。

※託児は1歳以上の未就学児が対象です。1月19日(水曜日)までにお申し込みください。(定員5名)

【新型コロナウイルス感染防止対策のためのお願い】

- ・体調のすぐれない方(発熱や風邪症状のある方)は来場をお控えください。
- ・不織布マスクの着用、施設入口での手指の消毒、咳エチケットの徹底をお願いします。
- ・当日は健康状態の確認にご協力ください。



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中央文化センターホールでの開催を中止いたしました。

## 『稲城市婦人のつどい』から『女と男のフォーラムいなぎ』へ

このフォーラムは、1975年（昭和50年）の国際婦人年を記念して、「子どもに残すよい社会」をテーマに『稲城市婦わりながら、様々な形式で様々なテーマを取り上げ、現在の『女と男のフォーラムいなぎ』へと続いてきています。

この間変わらないのは、市民の実行委員会により企画・運営されていることです。フォーラムのこれまでを稲城や国、

| 回数 | 日程       | 名称               | テーマ（講師や出演者）                                          |
|----|----------|------------------|------------------------------------------------------|
| 1  | S51.3.18 | 国際婦人年記念稲城市婦人のつどい | 「子どもに残すよい社会」<br>(吉武輝子氏)                              |
| 2  | S53.3.31 | 稲城市婦人のつどい        | 「稲城の婦人活動のあゆみをさぐる」<br>(市川房枝氏)                         |
| 3  | S55.3.28 | 稲城の婦人のつどい        | 「稲城の婦人の地位向上とつながりを求めて」                                |
| 4  | S56.3.15 | 稲城の婦人のつどい        | 「あらゆる分野への男女共同参加の時代」<br>(山口みつ子氏他)                     |
| 5  | S57.4.25 | 82稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」<br>(山口みつ子氏)                           |
| 6  | S58.5.8  | 83稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅡ<br>(折井美耶子氏他)                     |
| 7  | S59.4.22 | 84稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅢ<br>(山口みつ子氏他)                     |
| 8  | S60.4.14 | 85稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅣ<br>(吉武輝子氏他)                      |
| 9  | S61.6.1  | 86いなぎの女性フォーラム    | 「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅤ<br>(西村絢子氏他)                      |
| 10 | S62.5.10 | 87いなぎの女性フォーラム    | 「ともに生きる婦人の連帯を」 女と男でつくる21世紀<br>(山口みつ子氏他)              |
| 11 | H1.2.18  | 88稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」<br>(丸木政臣氏他)                           |
| 12 | H2.1.28  | 89稲城の婦人のつどい      | 「ともに生きる婦人の連帯を」<br>(佐藤昌一郎氏他)                          |
| 13 | H3.1.26  | 90いなぎの女性のつどい     | 「21世紀・男女共生をめざそう」<br>(駒野陽子氏他)                         |
| 14 | H4.1.25  | 92いなぎの女性のつどい     | 「女と男でつくるいなぎ」<br>(藤田綾子氏他)                             |
| 15 | H5.1.31  | 93いなぎ女性フォーラム     | 「女と男 人間らしくあなたらしく」<br>(落合恵子氏)                         |
| 16 | H6.1.30  | 94いなぎ女性フォーラム     | 「女と男 人間らしくあなたらしくⅡ」<br>(小沢遼子氏)                        |
| 17 | H7.1.22  | 95いなぎ女性フォーラム     | 「女と男 人間らしくあなたらしくⅢ」<br>(木元教子氏)                        |
| 18 | H8.2.28  | 96いなぎ女性フォーラム     | 「女の生き方男の生き方 変わったことと変わらないこと」<br>(山口みつ子氏・半田たつ子氏・広岡守穂氏) |
| 19 | H9.2.24  | 97いなぎ女性フォーラム     | 「メディアの中の女性像・男性像」<br>(樋口恵子氏・岩崎貞明氏)                    |
| 20 | H10.3.1  | 98いなぎ女性フォーラム     | 「女と男・今“働く”ということ」<br>(中島通子氏)                          |
| 21 | H11.2.28 | 99いなぎ女性フォーラム     | 「聞いて、聞かせて、あなたの本音～家庭で・職場で・地域の中で～」<br>(江原由美子氏)         |
| 22 | H12.3.5  | 女と男のフォーラムいなぎ2000 | 「転機を生かす・転機を創る～パートナーシップが変わるとき～」<br>(福沢恵子氏)            |

人のつどい』として開かれました。その後、名称は、『いなぎの女性のつどい』、『いなぎ女性フォーラム』など変

国際的な動きと共に紹介します。

| 稲城の動き                               | 日本の動き                                    | 国際的（国連などの）な動き                                       |
|-------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
|                                     | (昭和21年 婦人参政権獲得)                          | (各国で婦人参政権の獲得)<br>国際婦人年世界会議（メキシコシティ）<br>(1975年昭和50年) |
|                                     |                                          | 国連第34回総会「女子差別撤廃条約」採択<br>(1979年昭和54年)                |
| 世界女性会議（コペンハーゲン）1名参加                 |                                          | 世界女性会議（コペンハーゲン）                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
| 市民組織「稲城市婦人関係懇談会」設置                  | 「男女雇用機会均等法」の公布<br>「女子差別撤廃条約」批准           | 世界女性会議（ナイロビ）<br>（バックラッシュ発生 アメリカ）                    |
|                                     |                                          |                                                     |
| 稲城市婦人行動計画策定に向けての提言<br>（女性センター設置を提言） |                                          |                                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
| 「稲城市女性行動計画（第1次）」策定                  |                                          |                                                     |
| 市民組織「稲城市女性行動計画推進協議会」設置              | 「育児休業法」の公布                               |                                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
|                                     | 「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」（以下、パートタイム労働法）の公布 | 女性に対する暴力撤廃宣言                                        |
|                                     |                                          |                                                     |
| 世界女性会議（北京）3名参加<br>市議会議員に女性5名選出      | 「育児休業法」を「育児休業・介護休業法」への改正（介護休業制度の法制化）     | 世界女性会議（北京）                                          |
|                                     |                                          |                                                     |
| 「稲城市女性行動計画（第2次）」策定                  |                                          |                                                     |
|                                     |                                          |                                                     |
|                                     | 「男女共同参画社会基本法」公布、施行                       |                                                     |
|                                     | 「男女共同参画基本計画」閣議決定                         | 国連特別総会「女性2000年会議」（ニューヨーク）                           |

| 回数 | 日 程      | 名 称              | テーマ（講師や出演者）                                                   |
|----|----------|------------------|---------------------------------------------------------------|
| 23 | H13.2.25 | 女と男のフォーラムいなぎ2001 | 「私にだけまかせないで～仕事・子育て・老後～」<br>(井上孝代氏)                            |
| 24 | H14.2.24 | 女と男のフォーラムいなぎ2002 | 「私にだけまかせないでパートⅡ～性域なき構造改革！<br>女も男も・仕事も・家庭も～」(大日向雅美氏)           |
| 25 | H15.3.2  | 女と男のフォーラムいなぎ2003 | 「はじめの一步は私から～家庭へ、そして社会へ～」<br>(汐見稔幸氏)                           |
| 26 | H16.3.7  | 女と男のフォーラムいなぎ2004 | 「女らしさ・男らしさ・自分らしさとは？～多様な生き方を認めよう～」<br>(瀬地山 角氏)                 |
| 27 | H17.3.5  | 女と男のフォーラムいなぎ2005 | 「がまんしないで・させないで～気づいてますか？身の回りの暴力～」<br>(江原由美子氏)                  |
| 28 | H18.3.4  | 女と男のフォーラムいなぎ2006 | 「気にしてありますか？勝つこと負けること～私らしさの見つけ方～」<br>(香山リカ氏)                   |
| 29 | H19.2.24 | 女と男のフォーラムいなぎ2007 | 「変える勇気 変わる勇気」<br>(辛 淑玉氏)                                      |
| 30 | H20.2.23 | 女と男のフォーラムいなぎ2008 | 「女と男、どっちが辛い？」<br>(諸橋泰樹氏・杉井静子氏)                                |
| 31 | H21.2.28 | 女と男のフォーラムいなぎ2009 | 「女と男、いま、『働く』ということ。～自己責任じゃ解決できない！<br>聞いて、語って、何とかしなきゃ！」(竹信三恵子氏) |
| 32 | H22.2.28 | 女と男のフォーラムいなぎ2010 | 「助け合って乗りきろう！あなたの生きづらさは何ですか？<br>～講談で聞く男女共同参画 A・B・C～」(宝井琴桜氏)    |
| 33 | H23.2.27 | 女と男のフォーラムいなぎ2011 | 「“イクメン”はどこに向かうのか？～ブームで終わらせないために～」<br>(渥美由喜氏)                  |
| 34 | H24.2.26 | 女と男のフォーラムいなぎ2012 | 「女子力？男子力？人間力！～あなたの中に、あるちから～」<br>(中垣陽子氏・諸橋泰樹氏)                 |
| 35 | H25.2.23 | 女と男のフォーラムいなぎ2013 | 「私は私～みんなで考えよう、幸せのかたち～」<br>(山田昌弘氏)                             |
| 36 | H26.3.2  | 女と男のフォーラムいなぎ2014 | 「何のために働くの？誰のために働くの？」<br>(深澤真紀氏)                               |
| 37 | H27.3.1  | 女と男のフォーラムいなぎ2015 | 「気づいて築く 私の中にあるチカラ」<br>(斎藤美奈子氏)                                |
| 38 | H28.2.28 | 女と男のフォーラムいなぎ2016 | 「『らしさ』にとらわれていませんか 男性学の視点から日常の『あたり前』<br>を見つめ直す」<br>(田中俊之氏)     |
| 39 | H29.2.12 | 女と男のフォーラムいなぎ2017 | 「備えあれば憂いなし？！～女性の視点から考える災害対策～」<br>(竹信三恵子氏他)                    |
| 40 | H30.2.3  | 女と男のフォーラムいなぎ2018 | 「気にする？気になる？気にならない？～15秒の世界が伝えるジェンダー像～」<br>(千田有紀氏)              |
| 41 | H31.2.16 | 女と男のフォーラムいなぎ2019 | 「みんな違ってみんなイイ！！女と男だけじゃないフォーラム」<br>(室伏きみ子氏)                     |
| 42 | R2.2.1   | 女と男のフォーラムいなぎ2020 | 「絵本今昔ものがたり ～「らしさ」の描かれ方～」<br>(東條知美氏)                           |
| 43 | R3.1.24  | 女と男のフォーラムいなぎ2021 | シネマ&トーク 「次は何に生まれましょうか ～見つめませんか？自分のこと、<br>周りのこと～」(野本梢氏・稲村久美子氏) |
| 44 | R4.1.29  | 女と男のフォーラムいなぎ2022 | 「“チーム育児” ってなに？チームメンバーは経験・年齢・性別不問」<br>(遠藤利彦氏)                  |

| 稲城の動き                                        | 日本の動き                                                                                   | 国際的（国連などの）な動き        |
|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 「女性の悩み相談」開始                                  | 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」施行                                                           |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              | 「少子化社会対策基本法」公布、施行                                                                       |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
| 稲城市男女平等推進センター開設                              | 「女性の再チャレンジ支援プラン」策定                                                                      |                      |
| 第二次稲城市女性行動計画達成率94.3%<br>「稲城市男女共同参画計画（第3次）」策定 |                                                                                         |                      |
|                                              | 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」策定                                      |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         | 国際女性デー100周年（H22.3.8） |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
| 男女共同参画に関する実態調査の実施                            | 「女性活躍加速のための重点方針2015」策定（以降、毎年策定）<br>「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」公布（翌年、全面施行）                  |                      |
| いなぎプラン（稲城市男女共同参画計画）（第四次）策定（H28.3月）           | G7伊勢・志摩サミット「女性の能力開花のためのG7行動指針」及び「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ（WINDS）」に合意                      |                      |
|                                              | 刑法改正（強姦罪の構成要件及び法定刑の見直し等）                                                                |                      |
|                                              | 「政治的分野における男女共同参画の推進に関する法律」公布、施行<br>「セクシュアル・ハラスメント対策の強化について～メディア・行政間での事案発生を受けての緊急対策～」の策定 |                      |
|                                              | 女性活躍推進法改正                                                                               |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |
|                                              |                                                                                         |                      |

## 実行委員になって一言

### ★坪内 美幸

フォーラムに初めて関わった12年前、「生きづらさ」という言葉がとても重く、口にするのが辛い言葉でした。

しかし、昨今この言葉を聞かない日はありません。フォーラムを通じて「みんなが生きやすい社会」「私自身が生きやすい社会」を改めて考えることが出来ました。

### ★安重 千夏子

「出産のために仕事を辞める女性は年間20万人、経済損失は1.2兆円」と言われています。これは日本にとって大きな損失です。まさに今回のお題となっている「チーム育児」とは何かについて真剣に学び、地域包括ケアに結びつけて子育てを見直し、結果として女性の力を社会でも活かしていくことが、国としての発展にも繋がるのではないかと考えています。実行委員の一人として多くを吸収して、実践していきたいと思っています。

### ★井川 眞知子

新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中、新しい試みとして、オンラインで開催できた事が何よりでした。

新しいことへの挑戦は、ハラハラドキドキの連続でしたが、必要な知識・技術・能力・環境等を持った委員の皆さんの力の結集で成し遂げられたと思います。

講師の遠藤先生はもちろんですが、委員の皆さん、事務局の皆さんに感謝です。

### ★小山 照江

私は昨年、茨城から稲城市に引っ越してきました。新天地で知人もいません。少し孤独を感じていました。男女フォーラム委員になってからは市民協働課の皆さんや委員の皆さんとお近づきになれて心が晴れました。

皆さんと一緒に活動できて良かったです。ありがとうございました。

### ★棚原 佳代

今年のフォーラムは、開催日間近に新型コロナウイルスの感染者が急増し、急遽、初の試みとなる「オンライン形式」での開催となりました。オンデマンド配信としたため、リアルタイムで参加者の方とコミュニケーションが取れなかったことは、とても残念でした。しかし、このような時代だからこそ、開催中止ではなく、どうにか皆様に届くような形式を考え、このような開催方法となりました。

講師の先生からは、人類が元々行っていた子育ての形態は、チーム育児だったというお話があり、講演内容は、男性の育児参加・祖父母や地域の方のサポートなどについて、自分にできることを考え

直すきっかけとなっています。私たち実行委員は、誰かのチーム育児の一員となるため、当日のフォーラム以外に、稲城市民に寄り添った子育て内容のパネル展示を行いました。小さな力ですが、一つの地域の力となっていたら嬉しいです。

人を取り巻く状況は一人一人異なりますが、この講演内容が、支えてもらう人と支えてくれる人の優しい循環作りの手助けになることを願っています。

#### ★寺島 彰

「子育て」は、私にとってまさにいま、真っ最中のテーマであり、今の自分にとっても、コロナ禍の社会にとっても改めて見つめる必要があるテーマと思い提案をさせていただき、フォーラムとして開催することができました。一人でも多くの人に「チーム育児」という言葉自体が浸透して、社会全体で子育てをしていく環境ができ、それによって救われる方がいてくれればと思います。

#### ★寺島 秀珍

2回目の実行委員で、実行委員や事務局の皆様のご支援のおかげで2歳の娘同伴でも、チーム育児やフォーラムの準備について、議論を交わすことができました。今回のフォーラムで伝えなかったメッセージとして、「育児」は子育て世代だけでなく、全世代が当事者意識を持つことが大事ということを掲げました。ぜひ今後もこのテーマをもっと掘り下げて「子育てしやすい街、稲城」の中核をなす事業に発展していくことを期待しています。

#### ★劉 愛萍

この度は、「チーム育児」をテーマに、女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員として、活動に参加でき、本当にありがとうございました。私は出産を機に、20年ほど前に稲城に移住しました。人情あふれる稲城の地で周囲の人のサポートをいただきながら、仕事も育児も充実して楽しい日々を送ることができました。まさに「チーム育児」の体験者です。これからも稲城の魅力をもっともっとたくさんの方に知っていただき、子育てしやすい街にしていく思いを胸に、この活動をさらに発展していくことを願っています。市役所の方、委員の皆様、本当に充実した楽しい一年で、ありがとうございました。

#### ★若山 順子

前年度に続きコロナ禍のなかでフォーラムを企画、直前に訪れた変異株の猛威に、それまでの準備が水の泡になってしまうのは忍びないと、市役所の職員の皆さんと協働して新しいフォーラムのかたちを描くことができました。遠藤先生にも深く感謝いたします。

# ◆女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員会活動経過報告◆

| 月/日                | 項 目             | 内 容                                                                                                                                         |
|--------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 広報いなぎ5月15日号で実行委員公募 |                 |                                                                                                                                             |
| 7/18(日)            | 第1回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・役員選出</li> <li>・フォーラムとは（目的や実行委員会の役割など）</li> <li>・本番候補日、会議の日程決定</li> </ul>             |
| 8/1(日)             | 第2回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ、形式、新型コロナウイルス感染症対策について意見交換</li> </ul>                                                            |
| 9/5(日)             | 第3回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ、形式決定</li> <li>・オンライン配信検討 ・日程、講師候補決定</li> </ul>                                                  |
| 9/26(日)            | 第4回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトル決定 ・2部（後半部分）について検討</li> <li>・ポスター、チラシの色決定</li> </ul>                                            |
| 10/10(日)           | 第5回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド配信について</li> <li>・2部（後半部分）参加型質問タイムに決定</li> <li>・ポスター、チラシリード文について</li> </ul>                    |
| 11/7(日)            | 第6回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター、チラシの最終確認</li> <li>・参加型質問タイム ・パネル展について</li> <li>・記録集について</li> </ul> <p>（11/25（木）講師とリモート打合せ）</p> |
| 12/5(日)            | 第7回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師とのリモート打合せの報告</li> <li>・ポスター完成配架</li> <li>・当日の役割分担 ・パネル展について</li> <li>・購入図書について</li> </ul>         |
| 1/9(日)             | 第8回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネル展について</li> <li>・全体の流れの確認</li> <li>・司会台本の確認</li> </ul>                                            |
| 1/23(日)            | 第9回実行委員会        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染者急増→拡大防止の為中止決定（ホールでの開催を断念、オンデマンドYouTube配信を検討）</li> </ul>                                 |
| 1/29(土)            | 当 日             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・急遽実行委員のみオンラインにてフォーラム実施（オンデマンドYouTube配信の為、録画）</li> </ul>                                             |
| 2/6(日)             | 第10回実行委員会       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・反省会</li> <li>・記録集編集について</li> <li>・YouTube動画編集、配信作業について</li> </ul>                                   |
| 2/6～               | 記録集・YouTube動画作成 |                                                                                                                                             |



打合せの様子



パネル展

# 女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員名簿



## 実行委員

|        |              |
|--------|--------------|
| 実行委員長  | 坪内 美幸        |
| 副実行委員長 | 小山 照江 若山 順子  |
| 会計     | 井川 眞知子       |
| 会計監査   | 寺島 秀珍        |
| 実行委員   | 安重 千夏子 棚原 佳代 |
|        | 寺島 彰 劉 愛萍    |

## 協力

保育担当 保育士 1名

## 女と男のフォーラムいなぎ2022記録集

令和4年3月発行

編集発行 女と男のフォーラムいなぎ2022実行委員会  
稲城市産業文化スポーツ部市民協働課男女平等参画係  
東京都稲城市東長沼2111  
電話 042-378-2111